

# 九条の会講演会

小田実さんの志を受けついで

日時：2008年3月8日（土）開場 12時 開会 13時30分

会場：渋谷C.C.Lemonホール

主催：九条の会 <http://www.9-jo.jp/>

# 九条の会講演会

小田実さんの志を受けついで

2004年6月10日、「九条の会」発足の記者会見で、憲法は「いまこそ旬」だと語った小田実さん。昨年亡くなった呼びかけ人の小田さんの志を受けついで、ひきつづき憲法九条を守り、生かしていくという主旨で、「九条の会」は講演会を開催します。当日は小田さんのパートナーの玄順恵さんも出席されます。

日時：2008年3月8日（土）  
開場 12時 開会 13時 30分

会場：渋谷C.C.Lemonホール  
<http://shibuko.com/map.html>

講演：井上ひさし 劇作家  
大江健三郎 作家  
奥平 康弘 憲法研究者  
加藤 周一 評論家  
澤地 久枝 作家  
鶴見 俊輔 哲学者  
(1月21日現在)

音楽：チェロとピアノの演奏  
(曲目)

外山雄三 チェロとピアノのための「こもりうた」  
P. カザルス 「鳥の歌」 ほか  
チェロ演奏 渡部 宏(東京ヴィヴァルディ合奏団代表)  
ピアノ演奏 山形明朗

入場料：全席自由席

前売券 1000円

郵便振替で代金をご送金ください。

折返し入場券をお送り致します。

口座名 九条の会

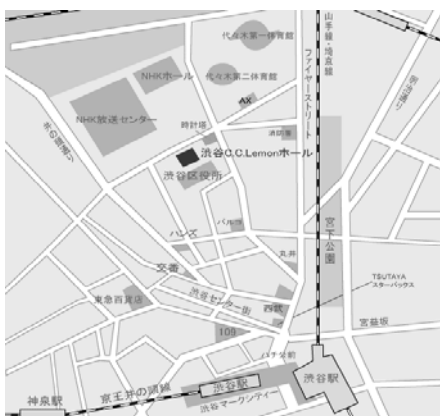
口座番号 00180-9-611526

通信欄に「講演会入場券〇枚希望」とお書きください

当日券 1200円

入場は、前売り券優先の先着順とさせていただきます。  
手話通訳あります。

主催：九条の会 <http://www.9-jo.jp/>  
問い合わせ：事務局 TEL 03-3221-5075



日本国憲法は、いま、大きな試練にさらされています。  
ヒロシマ・ナガサキの原爆にいたる残虐な兵器によって、五千万を越える人命を奪った第二次世界大戦。この戦争から、世界の市民は、国際紛争の解決のためであっても、武力を使うことを選択肢にすべきではないという教訓を導きだしました。

侵略戦争をしつづけることで、この戦争に多大な責任を負った日本は、戦争放棄と戦力を持たないことを規定した九条を含む憲法を制定し、こうした世界の市民の意思を実現しようとしてきました。

しかるに憲法制定から半世紀以上を経たいま、九条を中心に日本国憲法を「改正」しようとする動きが、かつてない規模と強さで台頭しています。その意図は、日本を、アメリカに従って「戦争をする国」に変えるところにあります。そのために、集団的自衛権の容認、自衛隊の海外派兵と武力の行使など、憲法上の拘束を實際上破ってきています。また、非核三原則や武器輸出の禁止などの重要施策を無きものにしようとしています。そして、子どもたちを「戦争をする国」を担う者にするために、教育基本法をも変えようとしています。これは、日本国憲法が実現しようとしてきた、武力によらない紛争解決をめざす国の在り方を根本的に転換し、軍事優先の国家へ向かう道を歩むものです。私たちは、この転換を許すことはできません。

アメリカのイラク攻撃と占領の泥沼状態は、紛争の武力による解決が、いかに非現実的であるかを、日々明らかにしています。なにより武力の行使は、その国と地域の民衆の生活と幸福を奪うことでしかありません。一九九〇年代以降の地域紛争への大国による軍事介入も、紛争の有効な解決にはつながりませんでした。だからこそ、東南アジアやヨーロッパ等では、紛争を、外交と話し合いによって解決するための、地域的枠組みを作る努力が強められています。

二〇世紀の教訓をふまえ、二一世紀の進路が問われているいま、あらためて憲法九条を外交の基本にすることの大切さがはっきりしてきています。相手国が歓迎しない自衛隊の派兵を「国際貢献」などと言うのは、思い上がりでしかありません。

憲法九条に基づき、アジアをはじめとする諸国民との友好と協力関係を発展させ、アメリカとの軍事同盟だけを優先する外交を転換し、世界の歴史の流れに、自主性を発揮して現実的にかかわっていくことが求められています。憲法九条をもつこの国だからこそ、相手国の立場を尊重した、平和的外交と、経済、文化、科学技術などの面からの協力ができるのです。

私たちは、平和を求める世界の市民と手をつなぐために、あらためて憲法九条を激動する世界に輝かせたいと考えます。そのためには、この国の主権者である国民一人ひとりが、九条を持つ日本国憲法を、自分のものとして選び直し、日々行使していくことが必要です。それは、国の未来の在り方に対する、主権者の責任です。日本と世界の平和な未来のために、日本国憲法を守るといふ一点で手をつなぎ、「改憲」のくわだてを阻むため、一人ひとりができる、あらゆる努力を、いまずぐ始めることを訴えます。

2004年6月10日

井上ひさし (劇作家) 梅原 猛 (哲学者)  
大江健三郎 (作家) 奥平 康弘 (憲法研究者)  
小田 実 (作家) 加藤 周一 (評論家)  
澤地 久枝 (作家) 鶴見 俊輔 (哲学者)  
三木 睦子 (三木武夫記念館館長)